

認定特定非営利活動法人

いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい

ニュースレター



第39号

発行日 2024年11月28日

電話 & FAX 029-309-7690

電子メール network.ai8181@gmail.com

ホームページ <http://network-i.jp/>

例年より遅い紅葉の便りが多く聞かれる季節となり、雪の便りも届いています。
この冬は暖冬ではなく、平年並みか寒いとか…皆様にはかせなどひかれませんよ
うに、年を越されることをお祈りいたします。

◆2024年度 事業報告（2024年4月～9月）◆

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 4月25日 | 第1回理事会 |
| 5月21日 | 第2回理事会 |
| 5月25日 | 定期総会、講演会秋山邦久先生「要支援家庭に対する支援のあり方」 |
| 5月22日 | 講師派遣 内原同仁会子どもセンター |
| 6月5日 | 銚田市要保護児童対策地域協議会代表会議 |
| 6月26日 | 第3回理事会 |
| 7月1日 | 県要保護児童対策地域協議会代表会議 |
| 7月23日 | 水戸市要保護児童対策地域協議会代表者会議 |
| 7月26日 | 第4回理事会 |
| 8月30日 | 第5回理事会 水戸市要保護児童対策地域協議会実務者会議 |
| 9月28日 | 講演会 西澤哲先生 |

「不適切な養育を受けた子どもの心の理解とその対応」

- オレンジライン（電話相談）毎週 月・水・木（10:00～15:00）
- オレンジサロン（虐待体験者の居場所）毎週第2・3・4木（水戸・つくば）
- 児童養護施設・里親から巣立った若者への食糧支援（月1回）

不適切な養育を受けた子どもの理解と支援

ネットワークあい 仲根泰子

昨年実施できなかった山梨県立大学大学院特任教授の西澤哲先生の講演会を開くことができました。

今回のテーマは「不適切な養育を受けた子どもの理解と支援」ですが、「不適切な養育を受けた子ども」になぜ「理解と支援」が必要なのか、ということ。「トラウマ」「PTSD」「アタッチメント」というキーワードで分かりやすく、説明して下さいました。

講演会が終わってしばらくして、西澤先生の講演内容をまとめてみよう、改めてレジメを読み返してみました。何と！難しいことばが並んでいた！西澤先生の話をしている時は「そうか、そうか！」と納得しながら聞いていたのに……。

レジメを見ながら文字を追っていると、ことばとことばの繋がりがスムーズにいかない。

本題に戻って、西澤先生が「虐待」ということばを使わずに「不適切な養育」とした理由は、アメリカで使われていることば「abuse」を日本では「虐待」と訳して使っているが、「虐待」ということばには違和感があると著書にも書かれています。

abuse の本来の意味は「乱用」「正しくない使い方」ですが、子どもの「乱用」では日本語として意味がよく分からないため、暴力がイメージしやすい「虐待」ということばをあてはめたのかもしれませんが。しかし、もともとの意味「乱用」から考えて「虐待」の背景には親が子どもに対して自身自身の欲求満足を求めるといった「乱用関係」があり、身体的暴力のみを意味するものではないことを忘れてはならないということではないでしょうか。

このような「不適切な養育」の結果子どもの身に起きるのがトラウマ体験といわれる状態です。トラウマとは先生のことばを借りれば「さまざまなショッキングな体験に遭遇することによってで

きた心の傷であり、その傷が時間の経過によって癒されることなく、その人の心理状態や精神の働きに著しい障害を引き起こしているものをいう」ということです。

このようなトラウマ体験から起きてくる障害が「PTSD」〈心的外傷ストレス障害〉と言われる状態で、日常生活、対人関係に困難をきたしたりするなど、生きづらさを抱える人が多いことは、よく知られていることだと思います。

子どもの虐待体験は幼小期から始まることが多いことから、虐待を受けた子どもの 50%～70%にアタッチメント(愛着)の問題が認められるとのことでした。

これは、虐待というトラウマから生じたアタッチメントの障害が、成長していく過程で人格形成、他者との関係を中心に様々な問題を引き起こし、生きづらさにつながっていく、ということでしょうか。

最近では、災害や事件などから生じるトラウマにたいしては、カウンセリングなどで対応するケアの体制がとられるようになっていますが、虐待の場合は、どの程度ケアが行われているのでしょうか。西澤先生のレジメによれば、虐待を受けた子どもの心理的支援の方法が確立しているように感じます。施設や里親で養育されている子ども達にも、心理的支援は行き届いているのでしょうか？

保護されたことがあっても親元に帰された子ども、相談にすら至らなかった子どももたくさんいます。このような子ども達が、自分からケアを求めてくることは少ないだろうと思います。

私達大人はアンテナを高くして、気になる子どもには声をかけ話を聞くことで、必要な支援につなげられたら、と思います。



西澤哲先生 講演会

『不適切な養育を受けた子どもの心の理解とその対応』

アンケートより

- ・話は大変おもしろく飽きないで聞くことができた
- ・広範囲にわたり、ADHD的な講演内容であると感じた。
- ・すごく勉強になりました。
- ・色々とこれまでのことがむすびついてくる感覚で拝聴しました。
- ・頭を整理してこれからの気付きにしていきたいです。
- ・内容がとても良かったが難しくもあった。「プロセス」という言葉の重要性を学べた。
- ・公認心理師でもあるが、まさに学んできた内容でもあった。
- ・もう少し「不適切な養育」を受けた子ども達への具体的対応があると良かった。
- ・関連の本は何冊か読みましたが、講演会で直接お話を聞き気づきや頭の整理が出来た。
- ・アタッチメントの問題と友社会性とケア（支援）の部分をもう少し聞きたかった。
- ・先生の実体験による話は、現状と重ね合わせる事が出来、大変良かった。
- ・アタッチメントが色々な事に関連していることが、明確になってきました。自分のものとして使えるようにしたいです。
- ・トラウマについて、良く理解できた。
- ・もっともっと話を聞きたいと思いました。
- ・ソーシャルワーカーとして、興味関心のある領域がいくつもあります。子どもの福祉に関することへ携わりたいと思っていて、テーマは最も学びたい内容だったので参加しました。改めてアタッチメント障害が人格形成に与える影響について学ぶことが出来たと思います。
- ・西澤先生の講演があると聞きに行っています。毎回とても勉強になっています。
- ・難しい内容を、とても分かりやすく説明していただきました。今後、子ども達と関わる時に意識的に参考にしながら関係性を構築していきたいと思います。
- ・プリントの最後まで講演を聞きたかったです。
- ・専門的なお話でしたが、子どもと関わる活動をしていて、とても納得いく事が沢山あり、生かしていければと思います。歩みは止めないで続けていきます。
- ・トラウマについて新しい学びを得ることができました。
- ・selfの事を絡めてのお話があったのがヒットでした。
- ・アタッチメント、本当に大切だなと思いました。忙しい現代、丁寧に子育て出来る社会になる必要があるなと思いました。
- ・幼児期のアタッチメント形成がいかに重要か改めて実感しました。「全ての子どもに特別扱いを！」という先生のお話しにあたりまえのことなのに、複雑な環境の中にいるかもしれない子ども達に、社会ができることをしっかり学んでいきたいとおもいました。

- ・トラウマ体験について、自己組織化障害を知り、働いている園にも事例で考えられることがあったので学ぶことが出来て良かったです。
- ・乳児院のアタッチメントの形成についても納得できることがあった。
- ・社会的養護の子ども達の中に ADHD と診断されている子が多いことが、アタッチメントと関係していることを知れてよかった。
- ・話の中に出てくる事例も繋がりが想像しやすく、頭に入りやすかったです。少子化の話が生きる社会になると良いと思いました。保育所、女性等の話がとても興味深いです。
- ・アタッチメントと発達障害について、日々の業務の中で感じている疑問を、先生からも聞くことができ、すごくスッキリしました。こども家庭センターに来る家族との面談などで毎日悩みながらではありますが、児の状況をしっかりアセスメントしていきたいと思います。
- ・アタッチメントと共に、罪悪感の捉え方について興味をもちました。
- ・施設で働く上で子ども達の理解し難い行動の理由が少しだけ分かったような気がします。
- ・トラウマの症状として、侵入性、フラッシュバック等体験を思い出すことがありますが、今までは良くない事だと思っていましたが、自分の中で体験を整理するための体の反応だと知りました。追体験を通して、トラウマを解消していく治療が必要だと分かりました。講演全体を通して、子どもの行動には背景があり、それを理解しようとする事の大切さを改めて実感しました。
- ・発達障害でなくても、適切でない養育や家庭環境によって発達障害のような状態になってしまう。虐待を受けている訳ではないが、保護者からの不適切（からかい、乱暴な言葉）な扱いをされている為、怒ると激しい言葉や、手が出たり、友達をコントロールしようとして上手くいかない怒るなどの姿がある。虐待、ネグレクトまででなくとも不適切な関わりでもアタッチメントの不形成に繋がってしまう。
最近では自分の子どもが恐がったり、驚いたりする姿をおもしろがって SNS で流したり、自分の所有物のように扱う保護者が増えていると感じる。今後はより、アタッチメントの形成が上手くいかない子どもが多くなってしまふのかと不安がある。内容やテーマがとてもためになったと思う。
- ・虐待を受け、ADHD のような状態になっている子が、潜在的に多いと感じていたので、講演で話しが出たので、消化できた気持ちです。
- ・極端な話、保育所はなくても思っているの、同じ考えを持つ方の話が聞け良かった。
- ・すぐに発達障害があると思ひ込んだ方が、楽になるという事、現場での実感としてあります。
- ・特別な扱いをする→特別な自分を感じさせる支援をしたいと思います。
- ・不適切な行動→トラウマから回復するために再現行動をとる。
- ・共感性 3 つの要素 「共感的関心」「他者視点」「共感的苦痛」ととても興味深い話でした。
- ・先生のお話を久しぶりに復習するつもりで参加しましたが、マイナーチェンジされており、新しい学びを得ることができました。アタッチメント理論の見直しが自分の中で起き、複眼的な視点で臨床が行えそうです。



2024 年度会費納入のお願い



会員の皆様には、日頃から NPO 法人いばらき子どもの虐待防止ネットワークあいの活動にご理解を頂きまして、ありがとうございます。

あいは、会員の皆様の会費と活動に賛同して下さる皆様からの温かい寄付によって活動しております。あいの活動を継続していくために、本年度(2024 年度)会費を納入いただけますようお願いいたします。なお、既に納入頂いた会員様には心より感謝し、お礼を申し上げます。

ATM 払込取扱票を利用してお振込みをされる場合、名前等の記入をお忘れなくお願いします。

《ゆうちょ銀行》 (払込取扱票)

口座番号 00130-3-600272

口座名 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい

会員募集中

◆正会員 5,000 円/年

・正会員の方は、総会に出席し、決議権があります。

◆賛助会員 3,000 円/年

・賛助会員会費は、寄付金扱いとなり、所得控除が受けられます。

“NPO 法人いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい”
事業活動運営に、ご協力をお願いします。

〒311-4143 茨城県水戸市大塚町 1866-102

TEL : 029-309-7690

Mail : network.ai8181@gmail.com

HP : <https://network-i.jp>

